

第 8 回総合科学技術・イノベーション会議議事録（案）

1. 日時 平成 27 年 4 月 10 日（金）8：43～9：20

2. 場所 総理官邸 4 階大会議室

3. 出席者

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議員	菅 義偉	内閣官房長官
同	山口 俊一	科学技術政策担当大臣
同	高市 早苗	総務大臣
同	麻生 太郎	財務大臣
	（宮下 一郎	財務副大臣代理出席）
同	下村 博文	文部科学大臣
同	宮沢 洋一	経済産業大臣
議員	久間 和生	常勤 元三菱電機株式会社常任顧問
同	原山 優子	常勤 元東北大学大学院工学研究科教授
同	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社取締役会長
同	小谷 元子	東北大学原子分子材料科学高等研究機構長 兼大学院理学研究科数学専攻教授
同	中西 宏明	株式会社日立製作所代表執行役 執行役会長兼 CEO
同	橋本 和仁	東京大学大学院工学系研究科教授
同	大西 隆	日本学術会議会長 豊橋技術科学大学学長
臨時議員	甘利 明	経済再生担当大臣
同	有村 治子	規制改革担当大臣

4. 議題

- （1）国家重点プログラムの取組について
- （2）第 5 期科学技術基本計画について
- （3）2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた取組状況

5. 配布資料

- 資料 1－1 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の平成 27 年度予算等について
- 資料 1－2 最先端研究開発支援プログラム（FIRST）及び最先端・次世代研究開発支援プログラム（NEXT）の事後評価結果（案）【概要】
- 資料 1－3 最先端研究開発支援プログラム（FIRST）事後評価結果（案）
- 資料 1－4 最先端・次世代研究開発支援プログラム（NEXT）事後評価結果（案）
- 資料 1－5 革新的研究開発支援プログラム（IMPACT）の推進状況について
- 資料 1－6 IMPACT プログラム・マネージャー（PM）の新たな募集について
- 資料 2－1 第 5 期科学技術基本計画策定の具体化に向けた考え方
- 資料 2－2 第 5 期科学技術基本計画策定の具体化に向けた考え方【概要】
- 資料 2－3 科学技術イノベーション総合戦略 2015 構成（案）
- 資料 3 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた科学技術イノベーションの取組に関するタスクフォース〈報告〉
- 参考資料 1 最先端研究開発支援プログラム（FIRST）事後評価について
- 参考資料 2 最先端・次世代研究開発支援プログラム（NEXT）事後評価について
- 参考資料 3 科学技術イノベーション総合戦略 2014 のフォローアップについて
- 参考資料 4 第 7 回総合科学技術・イノベーション会議議事録（案）

6. 議事

【山口科学技術政策担当大臣】

それでは定刻でございますので、第7回総合科学技術・イノベーション会議を開会いたします。

本日は臨時議員として甘利経済再生担当大臣、有村規制改革担当大臣が御出席でございます。なお議題3からプレスが入る予定になっておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

議題の第1「国家重点プログラムの取組について」に関し、まず戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）の平成27年度予算等につきましてまず私から説明させていただきます。お手元の資料1－1を御覧いただきたいと思います。

戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）につきましては平成27年度予算として科学技術イノベーション創造推進費を500億円計上いたしました。このうち、健康・医療戦略推進本部が総合調整を実施する健康医療分野の割合は前年度と同じ35%といたしたいと思います。引き続き総合科学技術・イノベーション会議と健康・医療戦略推進本部の連携をしっかりと図ってまいりたいと思います。なおS I Pにつきましては後日、平成26年度の評価結果に基づき、平成27年度の各課題の配分額を決定する予定でございます。

続きまして、最先端研究開発支援プログラム（F I R S T）、最先端・次世代研究開発支援プログラム（N E X T）及び革新的研究開発推進プログラム（I m P A C T）につきまして久間議員から説明をお願いいたします。

【久間議員】

資料の1－2を御覧ください。

F I R S T及びN E X Tの事後評価結果案についてお諮りいたします。2ページを御覧ください。赤い文字に沿って御説明いたします。

F I R S T及びN E X Tは研究者を最優先にした従来にない研究開発プログラムです。今回それぞれ外部評価委員会を設置しまして、事後評価を実施しました。

3ページを御覧ください。

まず、F I R S Tの研究課題の事後評価結果では、総じて世界トップ水準の成果を創出したと評価されます。また、プログラムの事後評価結果では、自由度の高い制度設計や研究費の基金化、研究支援担当機関の設置が、世界トップ水準の成果創出に大きく貢献したと評価されます。

4ページを御覧ください。

若手・女性・地域に着目したN E X Tのプログラムの事後評価結果では、グリーン、ライフのイノベーションへの寄与が期待される研究成果の創出が図られ、プログラムの目的がおおむね達成されたと評価されます。今後の制度設計においては、研究者間の積極的な交流・触発を促進するとともに女性研究者のライフイベントにも対応可能な柔軟性ある成果とすべきと指摘しております。これらの評価結果について御審議をお願いいたします。

次に資料1－5を御覧ください。

革新的研究開発推進プログラム（I m P A C T）の推進状況について御説明するとともに、今後の進め方についてお諮りいたします。2ページ、3ページを御覧ください。

産業や社会の在り方に大きな変革をもたらす科学技術イノベーションの創出を目指すI m P A C Tは、昨年12人のプログラム・マネージャー（PM）を決定し、プログラムをスタートさせております。

4ページを御覧ください。

I m P A C Tでは、従来の研究開発プログラムとは異なる新たな取組をしております。PMは、構想実現に向けてのビジョンを提示し、そこから遡って、必要な技術や研究者を最適に組み合わせていきます。またPMは、5ページに示すとおり、チーム内への厳しい競争環境の導入や、慣習を破る産官学連携の枠組みといった挑戦的な研究開発マネジメントに取り組み、日々、進化しております。

6ページを御覧ください。

こうしたPM活動を支える体制もJSTに構築しました。ImPACTは、国内外から高い関心を寄せられており、7ページに示すような広報活動にも力を入れております。

8ページを御覧ください。

ImPACTの概念の浸透などの波及効果も広がる中で、ImPACTへの更なる期待が寄せられています。我々としても、現在議論を進めている第5期科学技術基本計画の方向性を先取りした、具体的なアクションは重要であると考えます。

そこで、将来の変化を大胆に先取りしたイノベーションの潮流、あるいは国家存立の基盤に関わるような重点課題に対し、果敢に挑戦する優れたPMを新たに募りたいと思います。

以上御了解いただければ早急にその準備を進めたいと思います。

説明は以上でございます。御審議をお願いします。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは御自由に御意見をいただけたらと思っておりますのでよろしく願いいたします。

よろしゅうございますか。よろしゅうございますね。

ありがとうございました。

それでは、科学技術イノベーション創造推進費における健康医療分野の割合、FIRST並びにNEXTの事後評価結果につきましては原案のとおり決定をしてよろしゅうございますか。

(「異議なし」との声あり)

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。それでは、案のとおり決定させていただきます。

本日有識者議員からいただきましたImPACTのプログラム・マネージャーの新規募集に関する御提案につきましては先を見越した政策展開という観点から大変意義のある取組だと思っておりますので早急に実行に移してまいりたいと思います。

続きまして議題第2の第5期科学技術基本計画につきましては原山議員から説明をお願いいたします。

【原山議員】

ありがとうございます。

資料2-1、2-2、2-3を御覧いただきます。

科学技術基本法制定から20年たっております。これまでの科学技術基本計画の歴史からは想定できない第4次産業革命とも称される異次元の世界に突入する、またオープンサイエンスの時代、それが第5期でございます。いわゆるデジタルネイティブと言われる世代が若手研究者、エンジニアとして、企業家として社会人として活躍する時代であり彼・彼女らが秘める力をフルに発揮できるそういう土壌を提供できるか否か、また超高齢化の時代に入りつつも質の高い生活、持続的な社会システムを担保できるか否か、これらの様々な挑戦に受け身ではなくプロアクティブに打って立つというのが私どものスタンスでございます。

大変革時代に突入する中、我が国が持つポテンシャルをフルにいかし大変革時代を先取りするそのために未来産業創造・社会変革に向けた取組を行っていく。経済社会的な課題の解決に向けて先手を打つ、また不確実な社会変化に対応し挑戦を可能とするポテンシャルを徹底的に強化する、そのために基盤的な力、特に知的プロフェッショナルと科学技術のエクセレンスを強化していく。これらを第5期科学技術基本計画の3本柱といたします。

しかしそこには規制の壁、分野の壁、組織の壁、産学官の壁、また府省の壁といった様々な壁が存在いたします。それらを打破していく、ここが知恵の絞りどころでございます。閣僚の皆様方の力添えサポートが必須でございます。よろしくお願いいたします。

まず「未来の産業創・社会変革にむけた取組」でございます。これが一番のチャレンジでございます。なぜなら既存の路線の延長線上にないものを創造するからです。しかし全く我々は土地勘がないというわけではございません。昨年度スタートいたしましたImPACT、先ほ

ど久間さんが説明なさいましたがまさのこの先駆けでありまして、I m P A C T の体験を踏み台とし新たな価値の形成をリードしてまいります。ここでは既存の規制の壁、既存の価値観の壁を乗り越えていくことが求められます。

次に「経済社会的な課題への対応」でございます。これに関しては府省間の壁が存在します。ここではS I P の体験をフルに生かしていくことといたします。そして「基盤的な力の育成・強化」でございますが、深い知識、洞察力、リーダーシップに基づき行動する知的プロフェッショナルというべき高い能力を有する多彩な人材が不可欠でございます。具体的には専門分野をリードする卓越した研究者はもとより、イノベーションの構想力、事業化も踏まえたマネジメント力を持つ人材、更にはイノベーションの現場を支える人材を育てエンパワーしてまいります。彼・彼女らこそが知のフロンティアを開拓し、知の資産を創出し、また既存の枠組みにとらわれることなく異なる人とともに行動し既存の壁、特に分野の壁、組織の壁でございますがこれを打破していくものと確信しております。

「好循環の誘導」でございます。この3本の柱を有機的につなぎ、好循環を誘導することが肝心で、そのための仕掛けも埋め込んでまいります。特に地域に関しましては、実装の場として重要になってきます。最後になりますが「基本計画と総合戦略の一体的運用」でございます。中長期的な政策の方向性を基本計画で示すとともに毎年状況の変化を踏まえつつその年に特に重点を置くべき施策を総合戦略によって示してまいります。それにより両者を連動させて中長期的な持続性を確保し、また相乗効果を引き出しより実効性のある科学技術イノベーションを推進してまいります。

以上でございます。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは御自由に御発言をいただきたいと思いますが時間に限りがございますので簡潔にお願いいたします。

どうぞ、久間議員。

【久間議員】

第1期から第3期基本計画までは技術解決型、第4期は課題解決型の計画を策定しましたが、第5期では、課題解決型を踏襲するとともに、技術の一流化を目指す両面作戦が必要だと思えます。産業政策上、最も重要な課題はシステム産業を構築し、これを我が国の基幹産業として育成することです。日本は、光ファイバーや炭素繊維、青色発光ダイオードなどのハードウェアコンポーネントの産業は強いですが、システム産業が弱いという課題があります。

そこで、一流のハードウェアコンポーネント、ソフトウェアコンポーネントを開発するとともに、それらをバリューチェーンとしてシステム化し、事業価値を高めていく政策が必要です。そのためには、ビッグデータ処理、A I、セキュリティなどのI C T 技術を強化して、日本の産業を強くすることが重要だと思えます。自動走行、医療介護、社会インフラ、ものづくり産業などに適用できるプラットフォームづくりが必要だと思えます。

以上です。

【山口科学技術政策担当大臣】

どうぞ、大西議員。

【大西議員】

4ページのところに、知の基盤の涵養という見出しがありまして、1行目にイノベーションの源泉となる基礎研究力を強化ということを書いただいています。今たまたま日本学術会議の総会をやっておりまして、昨日、去年ノーベル賞を受賞された天野浩先生の講演がありました。タイトルが継続性とイノベーションということでイノベーションというと飛躍とかこの断絶というイメージがありますけれども天野先生自身はずっと自分は三十数年同じテーマで研究を続けてきて継続してきたと。自分ばかりではなくてたくさん周りにそういう人がいていわ

ばそういう人の切磋琢磨や試行錯誤の中でイノベーションをもたらす成果が得られたと。逆に言えばイノベーションというのは最終結果ではありませんけれどもその過程でいろいろな基礎的研究が必要なんだと。ですからそういう意味では科研費とか大学に対する運営費交付金とか基礎研究について限られた予算の中でしっかり重点的に配分していただくということがやはり必要なのではないかなということをその講演から学んだわけです。

以上です。

【山口科学技術政策担当大臣】

では、橋本議員。時間が押していますので。

【橋本議員】

分かりました。過去2年間CSTIでは産業競争力会議と連携しながら様々な手を打ってきました。一昨年は司令塔機能強化、昨年は甘利プランを基礎とした国立研究開発法人を核とした橋渡し機能の強化、そして現在は大学改革を一生懸命取り組んでおります。第5期の科学技術基本計画ではこのように学と官に加えてぜひとも産業界との強力な連携をできるようなそういうシステムを入れ込んで、イノベーション・ナショナル・システムの構築を図りたいというふうに思っております。

以上です。

【山口科学技術政策担当大臣】

では、中西議員。

【中西議員】

今、お話しありましたが、産業界というものの、どのくらい国家目標の中へ取り込んでいけるかということが、非常に大きなインパクトのあるものになるだろうという議論を一生懸命深めております。どうやったらゴールを共有できるかという産官学の具体的なテーマでそれを盛り込んでいきたいと思っております。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。では、どうぞ、小谷議員。

【小谷議員】

今、久間議員からありましたように日本が今弱いシステム産業を構築するためにはもちろんコンポーネントの強化も大切ですがそれを支えるデータから意味を取り出すデータ科学そして更にそれを支える情報・数理科学の強化も大切だと思っています。それと関係して、二つ目ですけれども今大学改革が進んでいます。産業界のニーズにも応えるような学生を育てること、非常に大切です。学生にとっては大学の教育というのはその先30年40年の基盤となるものですので、しっかりと長期的な視野を持って大学改革を進めていければと思っています。よろしくお願いいたします。

【山口科学技術政策担当大臣】

どうぞ、内山田議員。

【内山田議員】

実はこの有識者議員ペーパーの中には書かれているのですが、先ほど原山先生が説明されなかったことを2点申し上げたいと思います。

一つはイノベーションを通じた地方の活性化、あるいは地方創生であります。これは今後の地方の活性化のためにも大学、研究機関、企業、特に中小企業ですが、それと地方自治体、これらが力を合わせてイノベーションを使って地域を活性化する必要があると思います。そのためにも単に全国画一的にやるのではなくて、クラスター化をして地域が日本の代表になれるよ

うにあるいは国際的にも闘えるようなイノベーションやる必要があると思います。

もう一点は科学技術予算についてです。もちろん昨今の苦しい財政状況の中で、我々は重点的かつ効率的に科学技術予算を使っていかなくてはいけないと思いますが、世界で最もイノベーションに適した国というものを目指すためには、やはりまだ政府による科学技術予算投資が先進国の中でおくれている、少ないという事態に鑑みましてこれを継続的に増加していく必要があるのではないかというふうに思います。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは各大臣から。すみません。30秒以内で。どうぞ。甘利経済再生担当大臣。

【甘利経済再生担当大臣】

システム改革につきましては既に昨年4月の甘利プランに沿って公的研究機関の橋渡し機能強化に取り組んでおりますが、これに加えこの夏までに大学改革フェーズ2を断行し、イノベーション・ナショナルシステムを仕上げていきます。そのためには大学改革と研究資金改革を一体的に進めることが不可欠でありまして、特に研究資金改革に関して総合科学技術・イノベーション会議に中心的な役割を果たしていただき感謝申し上げます。検討の加速に向けてさらなるリーダーシップの発揮をお願いしたい。

また今般第4期計画の中心的課題でありました経済社会的な課題への対応に加え、第5期計画の取組として、未来の産業創造・社会変革に向けた取組、基盤技術の強化を追加して三位一体で打ち出されたことを評価します。特に未来の産業創造、社会変革に向けた取組については成長戦略でもビッグデータの利活用、人工知能、I o T (Internet of Things) による大きな社会産業構造の変革の波が起きつつあること等の問題意識のもとで、検討を行っているところであります。第5期計画の議論と連携しながら検討を進めていきたいと思っております。

以上です。

【山口科学技術政策担当大臣】

では高市総務大臣、どうぞ。

【高市総務大臣】

ありがとうございました。

我が国が超高齢化社会を迎える中で、I o T、ビッグデータ、人工知能等のI C Tを十分に活用し、交通、物流、健康介護等の幅広い分野において社会全体のI C T化を進めていくことが重要であります。そのためには、社会を見守る超高性能レーダー等のセンシング基盤、膨大なI o T機器等からの情報を高速に伝達する5 G、光技術等の統合ネットワーク基盤、ビッグデータ解析等のデータ利活用基盤を組み合わせ、世界最先端のI C T基盤を構築することが必要であり、共通基盤技術としてI C Tの研究開発の強化が重要であります。

このため総務省におきましても、今後5年間の新たな情報通信技術戦略の在り方について、検討を行っておりまして、今後の科学技術基本計画の議論に貢献をしてまいりたいと存じます。

ありがとうございました。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

宮沢経済産業大臣、どうぞ。

【宮沢経済産業大臣】

まず次期基本計画では大学の技術シーズが幅広い分野のイノベーションに結びつくよう産総研等の橋渡し機関と大学の連携強化をいかに進めていくかが課題だと考えます。

次に広範な分野のイノベーションの原動力となるA I、ナノテクなどの共通基盤的な技術の研究開発を課題達成型の研究開発と車の両輪として推進することが必要と考えます。

また人材育成については産学の間の質的・量的ミスマッチ解消のため両者が連携し具体策を講ずるべく文部科学大臣と協力して産学官一体で検討を進めてまいります。

最後に大学改革については専門の大学経営人材を育てるキャリアパスがある米国の例も参考にしつつ我が国の大学経営力の抜本強化に取り組む必要があると考えます。

以上です。

【下村文部科学大臣】

我が国を取り巻く社会経済は目まぐるしく変化しておりまして、今後新たに生じ得る多様な課題について、スピード感を持って対応していくためには、何よりもイノベーション創出の基盤を強化していくことが決定的に重要であると思います。

このため、若手研究者をはじめとする人材の質の向上のためのシステム改革や、イノベーションの源泉としての学術研究及び基礎研究、先ほども御指摘がありましたが、改革・強化を強力に進めていきたいと思います。

また、未来の産業創造等に向けた取組として超スマート社会の形成が掲げられておりますが、そのためには、研究開発だけでなく、社会制度の構築や人材育成の取組を一体的に進めていくことが重要であるというふうに認識しております。

さらに、国家存立の基盤となる基幹技術について国が責任を持って戦略的かつ長期的に研究開発を進めていくことが重要であります。総合科学技術・イノベーション会議におかれましては、科学技術イノベーション政策を強力に推進できるよう、第5期科学技術基本計画における政府投資総額の目標を明記すべく検討を進めていただきたいと思っております。

以上です。

【宮下財務副大臣】

科学技術イノベーションは経済、社会の諸課題を解決するための重要な基盤であります。第5期基本計画につきましてもそうした効果を最大化するため議員ペーパーにお示しいただきましたように科学技術イノベーション政策の質を高める観点からの御議論をお願いしたいと存じます。

また、厳しい財政情勢を踏まえ、2020年度の国・地方の基礎的財政収支の黒字化目標をしっかりと堅持し本年夏までにその達成に向けた財政健全化計画を策定するべく検討を進めているところでございます。その中では科学技術分野も含め聖域なく歳出の徹底的な重点化・効率化を行っていくことが必要です。

したがいまして研究開発投資の総額の議論につきましてはこうした点にも十分御配慮をお願いしたいと存じます。

以上です。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは本日いただきました御意見につきましては、第5期科学技術基本計画の中間取りまとめ及び総合戦略の策定に反映をしてみたいと思います。

次に議題3に移らせていただきます。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた取組状況に移ります。まずタスクフォースにおける取組について私から報告をさせていただきます。お手元の資料3。写真も入っておりますので御覧いただきたいと思います。

骨太方針や総合戦略2014に基づきまして大会を通して世界に発信をしていくべく科学技術イノベーションのプロジェクトを形成するため有識者や関係各府省、東京都、組織委員会の協力ののもとでタスクフォースを開催いたしました。

2枚目を御覧ください。

日本発の科学技術イノベーションで世界へ大きく前進させるとの基本理念のもとにその達成手段をソーシャルインパクト、おもてなし、地方との価値共有という三つの考え方で整理をしてオールジャパンで世界に発信していく上でのスローガン、これをInnovation for

everyone2020と設定いたしました。

3枚目を御覧ください。ここに示す九つのプロジェクトにつきまして実施計画書を作成いたしました。

次4枚目を御覧ください。お手元にタスクフォースでの議論等を踏まえて作成をした冊子をお配りさせていただきました。

これを使いながらこれから民間企業への声かけを広めていきまして事業化を図っていく予定にいたしております。

5枚目でございます。現時点での取組状況を御紹介する試みとしては、本日はN E Cとパナソニックに御協力をいただきましてプロジェクトの一部についてデモを行いたいと思います。これから報道の方と一緒によろよろしておる人が入ってまいります。先ほど別カメラでその映像を捉えた警備室では事情を確認する必要があると判断をしてその方の顔を登録してモニターをしているという設定でございます。これから入ってくる方々の顔が認識されますと四角い白枠が表示されますが、事前に登録した方については、赤枠で特定をされますとアラート音が鳴るようになっております。

ここからは公開とさせていただきます。皆様方はデモの様子をスクリーンで御覧いただければと思います。それではプレスを入れてください。

(プレス 入室)

【山口科学技術政策担当大臣】

本日は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた科学技術イノベーションの取組に関するタスクフォースの報告をさせていただきました。

これからN E Cとパナソニックに御協力をいただきまして、九つのプロジェクトのうち移動最適化システム及びスマートホスピタリティでそれぞれ使われております顔認識技術と音声翻訳技術の一部をデモでお見せいたしたいと思います。

それではまず顔認識技術のデモにつきまして、N E Cから御説明をいただきたいと思います。

【N E C・江村氏】

N E Cで研究開発を統括しております江村でございます。よろしくお願いいたします。

日本の大都市東京で開催される大会はロンドンのようにフェンスで囲ったり軍隊を投入するのではなく、さりげない中で確実に警備を実現することが求められます。そこで日本が誇る断トツに世界一の顔認証技術を用いて一般の方に威圧感を与えずに確実に安心・安全を実現いたします。そのためには多数の防犯カメラを用いて警備をすることを考えます。カメラ画像のチェックを人の目視で行いますと監視員の負荷が大きくなり見逃しも発生します。

そこで顔認証技術を用いることで格段に効率が上がりその上で正確な監視が実現できます。

それでは、大会への適用をイメージしてよろよろして困っている人を顔認証技術でサポートする様子をデモいたします。よろよろしている様子から警備室では確認しなければならないというふうに判断して顔を登録しております。

それではスクリーンを御覧ください。

これは警備室のモニターをイメージしています。会議室に人が入ってきますと顔を認識して白い枠が。登録人物が検知されますとこのように写真が残ります。固定のカメラでカバーできないエリアは巡回警備員が身につけているカメラ、ここにカメラがついていますけれどもこれでカバーしています。この中にも顔認識技術が入っております。スクリーン右側はこの警備員が身につけているスマートグラス、これの映像になっています。それから女性のスタッフは、ブローチ型のカメラを身につけています。このブローチの中にカメラが組み込まれています。ブローチ型にすることでさりげない中で安心安全を実現します。

それでは先ほどからよろよろして困っている人がまだこの中にいます。

それではデモの続きを御覧ください。

【警備室 監視員】

こちら警備室。巡回警備員に告ぐ。登録人物が8時50分にゲートAから入室。至急確認せよ。

【巡回警備員】

了解。

【N E C・江村氏】

今、画面が赤くなり登録された人物が認識されました。

【巡回警備員】

警備室。登録人物を発見。女性スタッフに確認させます。

【女性スタッフ】

何かお困りですか。

【訪日外国人】

(外国語)

【女性スタッフ】

日本語は分かりますか。

【訪日外国人】

(外国語)

【山口科学技術政策担当大臣】

女性スタッフが困っているということでお困りの方を確認いたしました。その人物は外国語を話しておりまして女性スタッフも困っているようであります。ここから音声翻訳技術のデモに入りますが、この技術につきましては高市総務大臣から簡単な御紹介をいただけることになっております。よろしくお願いします。

【高市総務大臣】

安倍総理、この機械を覚えておいででしょうか。これは、2007年にこの総合科学技術会議で、当時の科学技術政策担当大臣として、音声翻訳のデモをさせていただいた時のものでございます。

当時はまだこんなに大きなものでございました。その後、この音声翻訳の技術開発が「イノベーション25」に選定され、そしてN I C Tで研究開発が進められてまいりまして、今では、この大きさのスマホのアプリで活用ができるようになりました。今後、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けまして、より小型の端末であったり、非常に大きな大画面の高精細端末など、端末の形状ですとか、翻訳の精度を、更に進化させてまいりたいと思っております。

【山口科学技術政策担当大臣】

それではその2020年の一端をイメージしていただくデモをパナソニックから御説明をお願いします。

【パナソニック・岡氏】

パナソニックでI C T技術を統括しております岡と申します。よろしくお願いいたします。

今日は画面に出ていますように、訪日外国人が言葉の壁を感じないおもてなしを行うために、今、高市大臣から御説明がありました2007年当時の翻訳機をより小さくしたり、あるいは大きくしたりという実験それから商品化を目指しております。使用シーンとしましては、画面にあるようなシーンが想定できるというふうに思っております。

実際我々メーカーですので、この机に置いているようなものを作らせていただいております。

て、今日はそのうちこの一番小さい端末を使ってデモをさせていただきます。

また、このような大きなタブレットのものも作っておりまして、これも実際動くような形になっております。

次の画面ですけれども、向かって左側が訪日者用ということで中国語から日本語への翻訳、向かって右側に関しましては日本人用で日本語から中国語への翻訳、この上三つは何かと言いますと一番上が音声入力したものをそのまま表示、真ん中はそれを翻訳した結果、それから一番下は翻訳したものが正しいかどうか分かるようにもう一度日本語に再翻訳して、真ん中の中国語に翻訳したものが正しいかを確認するためのものでございます。

先ほどお困りの外国人のところに今の一番小さい音声翻訳機を持ったボランティアが近寄ってきています。

ではデモの続きをご覧ください。

【ボランティア】

これが自動翻訳機でございます。自動翻訳には私の声を拾うためのマイクと翻訳結果を出力するためのスピーカーがついております。本日のデモではこの翻訳機の翻訳結果の音を手に持ったマイクを使いまして大きくして皆様に聞いていただきます。

どうされたのですか。

（翻訳機から外国語）

【訪日外国人】

（外国語）

（翻訳機から「財布を落としました。」）

【ボランティア】

どのようなのですか。

（翻訳機から外国語）

【訪日外国人】

（外国語）

（翻訳機から「赤い皮の財布です。」）

【女性スタッフ】

赤い皮の財布が見つかったそうです。

【ボランティア】

あなたの財布が見つかりました。

（翻訳機から外国語）

【訪日外国人】

（外国語）

（翻訳機から「素晴らしいご尽力に感謝します。」）

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

以上でデモを終わらせていただきます。お困りの方は財布を探しておられたようでございます。見つかって安心したということでございます。タスクフォースではこうした技術で日本の科学技術イノベーションを世界に発信できるよう更なる取組を進めてまいりたいと思います。

それでは最後に安倍総理から御挨拶をいただきます。

お願いいたします。

【安倍総理大臣】

オリンピック・パラリンピック東京大会はアスリートだけではなく我が国の科学技術イノベーションにとっても夢の舞台であります。2020年の大会では夢を現実に変える技術力を世界に示せるよう官民一丸となって取り組んでいただきたいと思います。世界は今IoTが進展するなど既存技術の枠組みの大変革時代を迎えつつあります。今後の価値創出の鍵はサービスや事業の連鎖を生み出す技術のシステム化と価値のネットワーク化、大胆に既存の壁を取り払い世界から取り残されないようにしなければならないと考えます。安倍政権では発足後間もなくSIPとIMPACTという国家重点プログラムを創設し、各省や産学官の間の壁を取り払う画期的な仕組みを導入いたしました。次期科学技術基本計画では更に一步踏み込んで組織の壁、世代の壁、そして国境の壁を取り払い、人材の流動化や新陳代謝を阻害する制度や研究資金制度、さらに大学改革にまで踏み込むものとしてほしいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

【山口科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、プレスの方は御退室をお願いいたします。

(プレス 退室)

【山口科学技術政策担当大臣】

それでは本日の議事は以上でございます。なお参考資料としまして、科学技術イノベーション総合戦略2014のフォローアップについてお配付いたしておりますのでまた御覧いただいたと思います。

第7回の議事録及び本日の資料は公表いたします。

以上で会議を終了いたします。ありがとうございました。